

12月の植物

ナンキンハゼ（トウダイグサ科）

学名：*Triadica sebifera* (L.) Small



2017.12.1 佐賀市佐賀城公園

秋は街路樹や庭園木の紅葉も美しい。ケヤキ、アメリカカフウ、ナンキンハゼ、メタセコイヤ、トチノキなどがあります。

今回紹介するナンキンハゼは中国原産の落葉高木で、スペード形の葉をたくさんつけます。葉を傷つけると白い乳液がでますが、これはトウダイグサ科の特徴といえます。葉は互生し、縁のギザギザは無く、表面はつるつるしています。果実はさく果といい中に3個の種子が入っていて野鳥が好んで食べます。いろいろな場所で幼木が見られるのは野鳥が運んでいるためです。

名前は紅葉するところから「ハゼ」の名が、中国原産なので「ナンキン」が付きます。しかしハゼの仲間ではなく、触ってもかぶれません。成長が早く害虫被害にも強いので、街路や公園、学校などに多く植樹されています。夏は青々とした深緑が暑さを和らげてくれますし、秋の真っ赤な紅葉や冬の銀色の果実は私たちの目を楽しませてくれます。しかし、良いことばかりではなく、夏はイラガの幼虫（「電気虫」）がつきます。そのため、夏に消毒が欠かせません。秋の落葉も半端でなく、落ち葉掻きはイチヨウに匹敵するようです。そのせいか、葉が紅葉する前に丸裸にしてしまうところもあり、ナンキンハゼの良さを生かし切れずに、もったいないという思いもあります。